

## 第3群の座長をつとめて

天津 栄子

第3群は、石川看護研究会の平成2年度の事業計画として設けられた「研修生制度」に参加され、それぞれ個別に金川克子会長の研究指導を受けられたその成果の発表である。

演題8.「糖尿病を合併する白内障手術患者の血糖コントロールに向けての看護的援助に関する研究」(増田 佳枝さん)

眼科病棟での白内障手術に際し、視力障害の看護にのみとられがちであるが、術前・術後を通して食事療法、運動療法を徹底することで、血糖を良好にコントロール出来るのではないかという研究目的である。術前・術後の血糖値データから、入院時より系統的な食事・運動療法の指導を行うことで、術後の血糖上昇をおさえられた。眼科であっても糖尿病患者にとっての教育指導がいかに大切であるかを指摘している。このような高齢者への適切な指導方法、教材など今後ますますその必要性が問われるであろう。

演題9.「院内教育における体験学習の効果についての検討」(林 友子さん)

4年間継続実施している体験学習の教育効果を明らかにすることを目的に、12名の研修生自身の自己評価と主任・婦長の他者評価をものさしとして検討したものである。その結果、院内の研修部所によって研修生・受け入れ側に得点のズレはあったものの全体的には基礎コース、リーダーコース、中堅コースと段階的な研修では高得点が得られた。研修生・受け入れ側双方とも、研修目的を明確にして実施する大切さが述べられていた。卒後教育の

一貫として院内教育の重要性とその効果的方法、内容、評価などに関して多くの病院で模索しており、継続した研究の成果を期待したい。

演題10.「患者理解を深めるための新人研修についての一考察」-ブラインドウォークと物音を中心にした研修から-(松任 弘子さん)

演者は年次別院内教育を実施している過程において、一年目看護婦に自分の行動を振り返り相手の立場を考える資質を養う必要性を痛感し、一年目の終わりにブラインドウォークと病棟での日常的な物音について研修内容を追加したのでその成果を検討することがこの研究のねらいである。患者理解については話しかけ、相手の反応の確認、訴えをよく聞く等6項目全てに研修前に比べ研修後の評価が高かった。また、物音についてはドアの開閉音、足音、笑い声、ストレッチャーの音など7項目全てに対して研修前よりも研修後に注意を払っている者が多く、「音」に対し意識して行動することに研修の効果が発見していると示唆している。9席と同様に研修での「体験」を通して得た「わかり方」はその後の臨床経験を、より豊かなものにしてもらえるであろう。

以上、3つの研究は発表者がそれぞれ研修生として、テーマを決定し、研究にのせ、表現するという研究過程を経てまとめられた貴重な体験である。さらなる発展と今後のご活躍を心から願っている。